



モノ、ヒト シゴト

TOYOKAWA PRODUCE

豊川市が誇るモノづくりと、それに携わるヒトを紹介합니다。

銅管で社会を支える

VOL.
52

NJT 銅管株式会社
生産技術室・渡邊 圭さん

国内トップレベルの生産量

エアコンや給湯器の部品などに使用される銅管の製造を手掛けるNJT銅管。設立当初から製造を続けている銅管は、国内トップレベルの生産量を誇り、長年に渡る豊富な経験と研究による高品質な製品は、国内外で好評を得ている。生産技術に携わる渡邊さんは「普段は見えないところにある銅管だが、人々の身近な場所でも暮らしを支えている」と話す。

ニーズを捉えた製品開発

銅は、他の金属に比べて熱伝導が良いことに加え、加工性にも優れており、古くからさまざまな製品に使われてきた。しかし、銅にはある特定の環境下において、表面に微小な腐食が発生し、徐々に進行していくという性質がある。この腐食が原因でエアコンなどの機器が故障し、顧客から改善の要望を受けることも多く、長年の課題となっていた。独自に研究を重ねた結果、ある成分を銅に微量に

加えることで、この現象が抑制されることを発見。従来の銅管と同等以上の品質を保ちながら、腐食の進行を抑える銅管の開発につながり、製品の耐久性が大幅に向上した。

「高度な製品開発の原点は、顧客のニーズをよく聞くことにある」と渡邊さんは語る。顧客や工場と何度も打ち合わせを行い、管の長さや、内面・外面への溝の付け方など仕様を決定。「ニーズと製造効率とのバランスを考慮して製品の仕様を作り上げることが難しいが、そこにやりがいがある」と渡邊さん。

さらなる高みをめざして

エアコンをはじめ、冷蔵庫やパソコンなど身近なところで使用されている銅管。渡邊さんは「これまで銅管製造に携わってきたが、さらに品質や外観、生産効率の向上を追求していきたい」という。長年培ってきた経験が生み出す技術力で、これからも人々の生活を支える製品の進化は続いていく。

NJT銅管株式会社

🏠 大木町新道100

1969年に前身となる住軽伸銅工業を設立。エアコンなどに使用される銅管を製造し、生産量は国内トップレベルのシェアを誇る。長年の課題であった、銅管の腐食を抑制する製品を開発。



1 細心の注意を払って行う顕微鏡による寸法、傷の調査 2 銅管の生産量は最大で年間約48000トンを誇る 3 顧客によって銅管の寸法や溝の付け方などの仕様はさまざま